ななやまだより 41号

2017年 10月8日　なな山緑地の会発行

特　集　　長池の里山クラブ

青木　弘年

私がボランティア活動を行っているのは、「なな山」の他に八王子別所にある「長池里山クラブ」です。週2回の活動なので「なな山」に出る日は週に3回、森で過ごしています。その他に、年3分の1ぐらい出かける信州のアトリエにも森があって、気の赴くまま一人で伐採や道づくりをしています。とにかく森の中に居ること、そこでの作業に魅力を感じ、その虜になってから23年になります。今回は「長池」のことを書くことにします。

整備された八王子長池公園の奥まった所に、里山の原風景が再現されているエリア、そこにクラブの本拠地である作業小屋があります。田んぼや畑、炭焼き小屋、水車小屋などがあり、昔懐かしいホッとする空気が流れているので、犬を連れた散歩の人たち、俳句のサークル、スケッチのグループや鳥・虫の写真を撮りに来る人のも多くいます。「これは何と云う野菜ですか？」「いま鳴いているのは何と云う鳥？」など質問を受けて慌てることもありますが、逆に昆虫写真家からカミキリの生態を教わることもありました。広場には私が丸太で作った20個余りのオブジェが並んでいて、創るのが楽しいのはもちろんですが、それを見つけた子供たちの歓声を聞くのも愉快です。一般の人が森の道を歩き、里山で癒される、そうした開かれた公園の良さが長池にはあります。（オブジェについては「長池里山クラブ」のHP→さとやま日記→2016.4を参照）

作業小屋と畑

「里山文化の継承と創造」をテーマとしている公園で、多摩丘陵の地形を残した広い雑木林と、長池・築池という二つのため池、長池見附橋からなっています。この橋は大正2年に落成した四谷から移築再建したものです。20ヘクタールの広さは「なな山」の約8倍ですが、「里山クラブ」の領域は、その中の作業ゾーン。作業小屋から周りが見える範囲ということになっています。作業の区画として1～16、それを順番に伐採して炭材に使っています。そして元へ戻ってくる頃には、萌芽更新や植樹した木が大きくなっていて、再び伐採できるという昔ながらの方法です。樹木の種類はコナラ、クヌギが大半を占め、エゴノキ、クリ、ホオノキも育っています。私が作っているオブジェの材料は炭焼きには使いにくい部分を使い、加工、継ぎ足しをして創りあげています。虫食いなどで寿命は4～5年、何回も作り変えの必要があります。炭焼きは年2回、3日間小屋に泊まって監視しながら焼きあげます。炭焼きで問題になる煙と臭いも脱煙脱臭装置の実験と改良が続けられ、かなりの効果が得られてきました。木炭の他に竹炭も人気があり、木酢液とともに「長池自然館」で販売しています。

この公園の名前になっている「長池」は一般の人が入れず、体験ゾーンとはひと山越えた反対側に、ひっそりとたたずんでいます。一度だけ入ったことがありますが、環境省の特定植物群落に指定されていて湿地植物が生育し、それを取り囲む雑木林には多くの生物が住んでいます。

「里山クラブ」の通常活動は月1回、その他に自主活動が週2回あり、こちらは高齢者（？）が主体です。月1回の活動は若いファミリー会員が多く、一日体験の人を含めると70～80名の時もあります。4月はオリエンテーション、自然観察、野草の天ぷら。5月は田んぼづくり、芋の植え付け。6月は田植え。7月はイモ堀とカレー。8月は案山子作り、流しそうめん。9月は自然観察会、サンマの炭火焼。10月は稲架け作り、稲刈り、柿取り。11月は脱穀。12月は収穫祭、餅つきと芋煮。1月はどんど焼き・まゆ玉焼き。2月は炭焼き・花炭、ピザ作り。3月は椎茸の駒打ち。といった行事があって、スタッフはそれらの準備が自主活動の一つになっています。このほかに正月のしめ縄や門松作りもします。その時に編んだ「しめ縄」を3年前から「なな山」の山開きのご神木に使っています。

私は家では絵を描いていますが、主題が今までとは違って「森と人・生き物」に変わってきました。自然のなかで森に関わり、そこでの作業から健康をもらい、アトリエでは作品と向きあっている訳です。もちろん生活の雑事に追われることも多いのですが、私はいまのこの生活に充実感や幸せを感じています。週に何回か森に出かける時、いつも家内からの決まり文句「年を考えてね！」を背に受けて出かけ、戻って来ると「木くずを外で払ってきてね」と言われたりしますが、それでも私は森にせっせと通い続けています。昔の人たちが暮らしの中で営んできたのとは大分異なりますが、淡々とした自然と向き合う生活、森の空気や匂いを感じる、これは今の時代ではとても大事なことであり貴重だと思っています。

イ　ベ　ン　ト　ニ　ュ　ー　ス

当会では、里山の保全活動のほかに、里山の自然の大切さを次の世代（若いお父さんお母さん、大学生さん、子供たち）に伝えるため、いろいろなイベント活動を行っています。

多摩市グリーンボランティア初級講座　4 月 22 日（土）

なな山の活動について講座が行われました。活動の紹介やかつての里山と暮らしの関わりの話、観察会が行われました。「落葉樹の山、常緑樹の山、アズマネザサの生い茂る山。三様の姿は生物の多様性を生み、五感を働かせ、楽しむ場ともなっています。その違いは十分体感できたのではないかと思います。それでも、これは自然界の半分の状況でしかないとのことです。残り半分は五感では感じえない深い地中に、その働き場があるのです。数えきれない生き物と構成物の種類と量。人と生き物の暮らしはその半分の恩恵・働きに負っているということです。緑地の中では、落ち葉や枯損木を分解し、木や草の養分として循環していく行程として、その一端を理解することができます。緑地の活動は日々の連続性の、そして毎年のように行う繰り返しの継続性の循環作業です。その中に楽しみを見出して、楽しみの行為が少しでも、緑地の保全に・地域の活性化に・人と自然との交流に役立つことになれば、それが最良であると思います。なな山緑地の活動の特性をひとつ挙げるとすれば、それは発生する物の有効活用ということに尽きると思います。落ち葉は畑の・山の養分として。伐倒木の大きいものはテーブル・ベンチ・プランター・緑地表札。中くらいのものは柵・土留め杭、作業道・階段などに。そして小物は木工の材として、名板・トレイ・スプーン・フォーク・ヘラなど。アズマネザサは太い順に、篠笛・草花の支持杭・畑の作物の支持杭・スダレ・めかい・シノダケヒンメリ・コースターなどの材料として。使い道は実に多様です。緑地の観察の 1 時間半の中で、これらを一通りは受講者に語ったつもりです。」「櫟」掲載の一文より （相田）

ガーデンシティこども祭り（多摩センター） 5 月 3･4･5 日（水・木・金）

なな山のメンバーは「多摩の自然とまちづくりの会」がイベント参加した「作って遊ぼう」のテーマに協力しました。
ぶんぶんゴマやペンダント作り、紙工作では鯉のぼりを作りました。たくさんのお子さんに参加いただき大盛況でした。

帝京大学教育学部　里山体験授業　5 月 19（金）･26 日（金）

19 日は緑地の中での設問形式の学び、26 日は天候不良のため大学の教室で、なな山緑地であらかじめ採取したアズマネザサを使って、シノダケ・ヒンメリづくりを体験してもらいました。

なな山植物観察会　5 月 24 日（水）

長池公園園長の内野秀重さんを迎えての植物観察会。同定できなかった植物は菌従属栄養植物のクロムヨウランであることが判明。東京都の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているランでした。

大妻女子大学家政学部の研究協力　7 月 23 日（日）

大妻女子大学家政学部は緑地保全活動が個人的効用を示すことによって関心や緑地保全活動がさらに広がるのではないかという研究をされています。調査には万歩計を装着して計測や、アンケート調査に協力しました。

LIFE Camping　in 多摩中央公園　8 月 12 日（土）

自然を体験できる身近な場として公園の価値を再発見し、参加者同士のふれ合いを通じて地域づくりへの興味関心を高めることをねらいとしたイベント。多摩市グリーンボランティア森木会と共催して木登り体験や枝打ち体験、竹灯篭作りになな山のメンバーも協力しました。

なな山めかい木工クラブ活動　（第2、4火曜日が活動日）

参加者はそれぞれの目的に合わせて作品の制作に励んでいます。
作品の一部はイベントなどでオブジェとして飾られたり、活動の紹介として展示されたりしています。

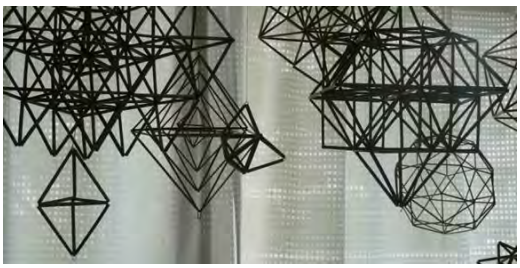
深めよう会員の絆　リレー随筆

ヒゲとパンツとヒンメリと　中山　茂樹

一年半ほど前に退職して年金生活者になった。何か新しいことを始めようと考えた。手軽なところからと、風貌を変えてみた。頭髪を伸ばし髭を生やし、日頃の着ているものを変えてみたりした。様々な色物を着るようになった。世の中の見え方が少し変わったようにも想えるが、大した変化にはならなかった。

そうしているうちに少し太ってきたことから、窮屈になった胴回りを直そうとミシン掛けを始めた。ミシン掛けが好きな訳ではないが、時間はあるのでゆっくりだがパンツを作り始めた。一枚の平ったい布がミシン掛けをするたびに立体的な形になって行く。どうもこの形を変えていくプロセスを想像するのが好きだということに気付いた。世の中には文字を使って小説、詩、俳句というようなものを作る人が居るが、私は布地のパーツを縫い集めて形を作っていく、そんなことが好きなのだ。

そんな時、なな山緑地でシノダケ・ヒンメリを始めた。シノダケ・ヒンメリ作りは、なな山緑地にあるシノダケを切り出し、洗い、一定の寸法に切り揃え、中空部分にワイヤーを通して編む、単純な作業ばかりだが最後に思いがけない形に出来上がる。完成の瞬間はいつもうれしくなる。そもそもはフィンランドの麦藁細工を模したものだが、面白い。今や、私の部屋には大小40個余りのシノダケ・ヒンメリがぶら下がっている。寝転んで見上げることが多いが見飽きない。



時折は、写真のような光景に目を奪われたりもする。この頃は、眺めながら新たな形を考える楽しみさえ覚えた。作るのには根気が必要だがこつこつと自分のペースで進められるので自分に合っている。そうしているうちに最近は、少しずつ一緒に作る人も現れた。他の人の作品から新たな刺激を受ける、こんな楽しみも生まれた。

退職後を第二の人生ともいうが、私の場合はヒゲとパンツとヒンメリとを通して、新たな試行と展開とを始めているようだ。どんな人生になるのか、たのしみになってきた。

植物のおはなし−5

じゃがいものはなし　永田　美夫

16世紀、スペインによるインカ帝国征服の副産物としてヨーロッパにもたらされたジャガイモは、高度4000mのアンデス山地を原産地とするだけに、冷涼なヨーロッパの風土にはよく適合した。だからといって、すぐに受け入れられたわけではない。ジャガイモ料理を献上されたエリザベス一世は有毒物質のソラニンによって危うく一命を落としかけたし、そのゴツゴツした外見はハンセン氏病を連想させ、さらには、聖書に出てこない植物であるジャガイモを食することは、神の怒りに触れるという流言も飛び交った。ヨーロッパにおいて戦争の無かった年が4年しかなかったという17世紀は小氷期でもあって、飢饉が打ち続いた。事情は18世紀になっても同様であって、戦争と飢饉、この二つがこの植物をヨーロッパ全土に広めたと言ってよいだろう。7年戦争でプロシア軍の捕虜となったフランスの薬剤師、パルマンティエはジャガイモによって五度もの捕虜生活を生き延び、帰国後ルイ16世の援助を得てパリ郊外の原野に展示試作圃場を設け「このジャガイモは非常に美味で栄養に富み、たいそう珍しいもので、王侯貴族の食べるものである。これを盗み、食するものは厳罰に処す」と看板を立てた。そして番兵に見張らせたが、わざと夜中には番兵を眠らせ、好奇心に駆られた民衆の盗むにまかせた。この作戦が図に当たり、ジャガイモの栽培が一般に広まったという。

「衣食足りて礼節を知る」という諺があるが、国家には当てはまらない。ジャガイモによって豊かになった国同士は盛んに小競り合いを繰り返す。1778年にプロイセンとオーストリアとの間で戦われたバイエルン継承戦争は相手国のジャガイモ畑を荒らすことを重要な戦略とした為、〈ジャガイモ戦争〉とも呼ばれたが、逆に言えば、この植物がいかにヨーロッパにおける主要作物になっていたかを示している。

このジャガイモ、日本には慶長年間にジャワのバタビア経由でオランダ船によってもたらされたが、その味の淡白さが野菜中心の日本食には合わず、やはり飢饉における救荒作物として徐々に広まっていったので「お救け芋」といわれたこともあったらしい。近年、葉を食べた虫を殺してしまう遺伝子が組み込まれた大豆やトウモロコシやジャガイモが作られたそうだが、虫を殺す遺伝子を持つ作物を人間が食べて大丈夫なのだろうか？17・8世紀の欧州人の食に対する保守性を嗤うことはできないと私は思うのだ。

なな山日記（活動・観察記録）

No. 315　2017年 4月16日(日)　晴れ　気温22℃
参加者 20人
前回雨天の為、振替活動日。ヤマザクラの背後に広がるコナラやクヌギの若葉が青い空に浮き上がり、清々しい季節。
● 作業/サクラ材（倒木）の処理。アズマネザサの手刈り。中の山で間伐と伐倒の片づけ。標本植物の採取。
● 観察/カリン。

No. 316　2017年 4月23日(日)　晴れ　気温15℃
参加者 23人
西の谷にある、傾いていたサクラを伐倒し、水路の周りのアズマネザサを刈取る。落葉や泥を掻き出すと湧水が流れ出した。西の谷に陽の光が差し込み、景観が一段と良くなった。
● 作業/西の谷の水路の整備。標本植物の採取。倉庫整備。
● 観察/エビネ、キンラン。

No. 317　2017年 5月14日(日)　曇り　気温18℃
参加者 22人
サクラの倒木が続く。幹中心の根は腐り、周りの細い根で辛うじて支えられていた老木だった。なな山だより 40 号配布。
● 作業/法面と広場の草刈り。サクラの処理。倉庫の整理。標本植物の採取。畳のイグサをほぐし、スイカ周りへ敷く。
● 観察/エゴノキ、ブタナ。

No. 318　2017年 5月28日(日)　晴れ　気温21℃
参加者16人
グリーンボランティア事務局や他の団体会員 10 名が活動の様子を視察。一緒に活動して賑やかな一日になった。
● 作業/法面の草刈り。キャベツ・ニラの収穫。畑の整備畝間に刈草を敷く、蜂トラップの中身更新。
● 観察/サイハイラン、ネジキ、ヤマザクラの実。

No. 319　2017年 6月11日(日)　曇り　気温24℃
参加者 20人
梅雨の時期で少し蒸し暑い。タマネギが豊作！
● 作業/法面残りの草刈り。タマネギの収穫。柵の作り替え。バス通り歩道沿いの草刈り。コナラ・サクラの伐倒。
● 観察/イチヤクソウ、ムラサキシキブ。

No. 320　2017年 7月 2日(日)　曇り　気温24℃
参加者 20人
前回は雨だった為、本日は振替えの活動日。
● 作業/ 西の谷奥の伐倒した木の片づけ。シイタケのホダ木を本伏せ。ヒノキ２本を伐倒し、柵材の準備
● 観察/アキノタムラソウ、エビヅルの実、ヒメヒオウギズイセン。

No. 321　2017年 7月 9日(日)　晴れ　気温28℃
参加者人 25 人
スイカが５つ、動物による食害にあった。残りは試食する。今年もおいしい！動物もきっと美味しかっただろう。
● 作業/西の谷奥の折損木の伐倒と処理、道路脇の柵の更新、植物標本の納入。
● 観察/ヤマユリ、ヒヨドリバナ。

No. 322　2017年 7月23日(日)曇り時々小雨　気温27℃
参加者 22人
暦の上では大暑だが、気温は低め。作業しやすい一日に。大妻女子大が緑地保全活動の運動量と効用の調査で来訪。
● 作業/道路脇の柵の補修、シイタケホダ木立ての補修、シイタケ、ナメコの天地返し、畑の手入れ
● 観察/エゴノキの実、クサギの花。

No. 323　2017年 8月13日(日)曇り後晴れ　気温27℃
参加者人 19人
自然観察ではクヌギの樹液が出ているところに沢山のカブトムシ、カナブン、チョウが集まっていた。
● 作業/法面・広場の草刈り、園内の自然観察、スイカとニラの収穫、クズの蔓の除去と蔓をリース材に保管。
● 観察/ホオズキ、ミョウガ、キツネダケモドキ。

No. 324　2017年 8月27日(日)　曇り　気温27℃
参加者人 19 人
暑さで集中力が鈍ると怪我に繋がるので無理をしないように。
● 作業/住宅空き地の雑草刈り。休憩所周りの枝打ち、広場の草刈り
● 観察/エビヅル、ヤブラン。

なな山だより　第41号 2017年 10月 8日発行
発行　なな山緑地の会
発行責任者　髙木直樹
住所　多摩市和田 1394-13
ホームページ　http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/
編集委員　鎌田文雄　飯田歩